

## 群馬地域食育推進ネットワーク交流会概要

群馬農政事務所消費生活課

- 1 日 時 平成22年2月25日(木) 14時00分～16時00分
- 2 開催場所 群馬県生涯学習センター第二研修室  
前橋市文京町2-20-22
- 3 参加者 群馬地域食育推進ネットワーク会員 17名  
関東農政局群馬農政事務所

### 4 概要

#### (1) 事例発表

テーマ「食事バランスガイドを参考にしたランチの開発にあたり」  
東日本栄養医薬専門学校校長 鈴木勲(さとし)氏

#### (2) 21年度の活動状況の報告

ネットワーク会員

#### (3) 食育の取組みについての説明

群馬農政事務所

#### (4) 会員同士の交流(意見交換会)

### 《会員からの活動状況発表内容》

#### 「NPO法人群馬県スローフード協会」

スローフードの考え方の基本にたち、具体的な取り組みとして、食育、地産地消、地域食材の掘り起こしなどを行っており「家族でいただきます」では、今、なぜその考え方が必要なのか。孤食、欠食、家族揃って楽しくいただくという場面が、様々な社会・経済情勢の状況で少なくなり、もう一度、正しい食生活のあり方に戻しましょうというスローフードの考え方を料理教室、講演会、ミニトーク等で広めています。

具体的に推進するためにレシピ集の作成(来年度完成予定)、会員向けに年4回の活動状況・新聞情報等の報告の会報を発行しています。

#### 「NPO法人渋川広域ものづくり協議会」

日頃の活動として、渋川市小野池にあるアジサイ公園でアジサイの手入れ・案内をしています。平成20年には、グリーンカーテンを目的にゴーヤを栽培し、収穫後ゴーコン汁の提供と料理教室の開催を行っています。

今後は、料理教室の開催によりコンニャクの消費拡大を図ることとしています。

#### 「群馬県食生活改善推進員連絡協議会」

県内36市町村すべてに協議会があり、各地域で健康づくりの担い手として、仲間の輪を広げる活動をしている。現在会員4,187名。食料自給率向上、地産地消事



【事例発表する鈴木氏】

業をもとに全会員が活動しています。

「群馬県生活協同組合連合会」

16団体の加盟があり、それぞれの生協で活動しています。

ぐんま食の安全・安心県民ネットワークの事務局となっています。イベント等で、食育コーナーを設置し、啓発に取り組んでいます。

今年度の活動として、群馬県生協連女性協議会とJA女性組織協議会の交流を行いました。それらについて生協会員への情報提供も行っています。

「群馬県農業協同組合中央会」

「みんなのよい食プロジェクト」とは、これからの日本人にとって、よい食とは何かをみんなで一緒になって考えて行動する運動であり全国のJAグループで行っています。県内で19のJAがあり、各JAそれぞれ食農教育の取り組みを行っています。

中央会では、

ごはん・お米とわたし作文・図画コンクール、21年度は7,761点の応募がありました。

ちびっこ農学博士では、昭和63年から実施しており、これまで、1,200名を超えるちびっこ農学博士が誕生しています。

ライススポーツセミナーは、21年度の単年度実施である。

ライスカップ駅伝

JAカップミニバスケットボール大会は、今年度から県のミニバス大会に共催として実施しました。

学校農園設置事業は、県内5モデル地区で実施。

バケツ稲づくりセット活用では、今年度、県内全小学校に配布。

収穫感謝祭2009では、県と合同で実施。延べ6万の来場者がありました。

以上のような取組を行っています。

「群馬県農政部蚕糸園芸課」

食品安全課が中心に食育を推進しています。関係機関は17団体で、食農については、蚕糸園芸課が担当しています。また、食農教育モデル校(小学校対象)を13年度から実施し来ており、今年度は14校実施しています。

その他では、農業関係団体へ委託事業(食農)を実施しています。

「社団法人群馬県栄養士会」

食に対する考え方を基本から学んで行こうとの方針から、「健康づくり提唱のつどい」を一年毎に行っています。今年は4回目の実施となりました。

食育フェスタでは、桐生支部を中心に参加し、食育関係では、直接的に関連がある団体のため、広く食育を常にイメージをして取り組んでいきたいと考えています。

「生活協同組合コープぐんま」

今年で、3年目となる取り組みに小学生を対象に「たべる、たいせつキッズクラブ」を立ち上げ、それを中心に食育を推進しており、22年度は、体験を中心にした取組を地域の団体に協力いただきながら進めて行く予定です。

#### 「地産地消市民ネット」

県の「食農教育等推進協働委託事業」の委託を受けて地元の名産料理の研究と継承をテーマに活動しています。22年度は、県の「赤い糸プロジェクト」に協力予定。

#### 「富岡市くらしの会」

現在、会員数246名の消費者団体です。創立40周年を迎え、国の食育が制定される前に、食の乱れが気になり、食生活が大変なことになると思い、20年前から食生活を改善し「栄養のバランスのとれた食事をしよう」をテーマにしていながら活動をしています。

また、イベントを通じて家族団楽が戻ってくるような食事になるよう努力をしていきたいと考えています。

#### 「前橋市消費者団体連絡会」

平成21年11月3日グリーンドーム前橋での「前橋市消費生活展」に参加し、エコバッグづくりを通して食育について提案を行った。前橋エリア会では、医食同源という言葉がありますが、食事を通して健康を守っていくということで、料理教室や試食会を通して「健康で過ごしましょう」をテーマに日頃から実践しています。

#### 「笹木京子」

平成元年から腹話術をしています。21年間で800回ほど実施しています。平成9年頃から子供たちの食生活の乱れを感じ、野菜を食べよう、早寝早起き等タペストリーを活用して環境とエコクッキングと食をテーマに調理実習を実施しています。

#### 「針塚農産」

味噌は、日本人の健康の源である。みそ作りの実習実演を行っている。旬の食べ物が一番であり、2月1日から漬物の旬である。実践をもって大勢の方へ自給率を向上させる為の一つの仕事としてバランスの取れた、原点に戻った食事が大切であり、全国各地で講演を行っています。

#### 《主な意見》

県に対して、メールマガジンがなくなり、イベント等への情報がかみにくくなったので、再開してほしい。

生産者との交流を行える機会を作してほしい。

県の食育に関連する予算についての説明をしてほしい。

交流会の回数を増やしてほしい。



【交流会の様子】